

れきしみち

- 企画展「一汁三菜－江戸から昭和の食文化－」
- 収蔵品紹介「戦地の携帯食－紀元二千六百年奉祝会の食饌－」
- 連載「懐かしの写真 昔ものがたり」
- 松平シンポジウムなどのイベント紹介
- 安祥文化のさとではたらく人たち、イベント紹介
- 博物館実習報告、市民ギャラリーからのお知らせ

2018.1
No.107



Teabuki



Mitsubaai



安城の三河万歳



Marubeki box



特集：企画展 一汁三菜－江戸から昭和の食文化－

写真中央：アmano食堂うちわ（本館蔵） 写真右：安城梨ラベル（本館蔵）



大正期の明治川神社



Chloranthus



安城市
歴史博物館

Anjo city Museum of History

博物館実習報告

博物館実習生が常設展の展示替えを行いました

博物館実習生が手掛けた三河真宗の文化コーナー



実習風景



平成29年度の博物館実習は、8月上旬に6日間にわたり行いました。2名の実習生に対して歴史・美術工芸・考古などの資料の取扱いや、博物館業務・文化財保護に関する講義・実習を実施しました。

今回の実習で、学芸員資格の取得を目指す学生にとってその素養を問われるのが展示資料の入れ替えです。展示替えは、観覧者にいかに資料を見やすく配置するか、分かりやすい解説パネル(キャプション)を作るかといった学芸員にとって必要不可欠な技量を身につける重要な実習です。今年度は常設展「三河真宗の文化」コーナーの展示替えを行い、キャプションの文章作成や展示作業などを実習生が行いました。

実習生を悩ませたのがキャプションの作成です。資料1点につき150～200字という制限のある文字数の中で、必要な情報を分かりやすく盛り込むことの難しさを痛感したようです。実習初日に展示替えについて説明を受けて以降、各自で苦心惨憺しながらキャプション作りに取り組んでいまし

た。作り上げたキャプションは学芸員の指導を受け、再度文章を推敲し、期日の午前中までに何とか完成させることができました。

展示替えは、まずそれまで展示されていた資料を収納することから始まります。学芸員の見守る中で慎重に掛け軸を巻き取ります。展示替えが行われる最終日までに、実習生は歴史資料や美術工芸品などの取扱いを学びます。実習生は大学において、掛け軸や卷子(巻き物)の取扱いをひと通り学んできていますが、実際の展示資料を取り扱うことは初めてです。全ての資料を収納した後に展示ケース内に掃除機をかけたり、除菌用の布でケース内の壁や床を拭いて資料に悪影響を与える要因を除去します。そして複製品の「安城の御影」や「聖徳太子孝養像」などを、展示ケース全体のバランスを考えながら配置しました。午後1時から始まった作業は、収納・清掃・展示・キャプションの配置と完了まで閉館時間の午後5時までかかりましたが、今年度の展示替えは無事に終了しました。ご来館の際は、ぜひ常設展をご覧ください。

安城市民ギャラリーからのお知らせ

安城市制65周年記念事業 企画展
「明治・大正・昭和 愛知の洋画家たち」



島田卓二<房州「白浜海岸」>

きびしい時代にあっても懸命に表現してきた愛知の洋画家たちの貴重な作品をご覧ください。
【開催期間】平成30年1月27日(土)～2月24日(土)
【時間】9:00～17:00
【休館日】1月29日(月)・2月5日(月)・2月19日(月)
【会場】市民ギャラリーD・E
【観覧料】無料

ミュージアムショップ新商品



妖怪クリアファイル 300円(税込)

歴史博物館オリジナルグッズ「妖怪クリアファイル」がミュージアムショップに登場しました！三代歌川豊国の「猫浮世絵『古猫の怪』」をモチーフにしており、かっこいい仕上がりになっています。ぜひチェックしてください。

安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏4代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】
住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は閉館)、年末年始(12/28-1/4)
URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600
安城市民ギャラリー	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491
安城市埋蔵文化財センター	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-4490 FAX: 0566-77-4491
安祥公民館	開館時間 / AM9:00～PM9:00 TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062





汁二菜

江戸から昭和の食文化

平成30年 1・20(土) - 3・18(日)

文責：三島一信

観覧無料

衣食住は、わたしたちの生活に欠かせないものです。なかでも食べることは手のかかるものもありますが、毎日の楽しみでもあります。

昔の食べ物といえば民俗の分野では、ハレとケで食事が違い、ハレの時のみご馳走が振る舞われるという印象があります。しかし、文書史料(文字に書かれた史料)には、日常でも様々な食べものが出されていたことを見いだすことができます。戦前でも簡単な洋食は日常に取り入れられていました。ぜひたくをしていたわけではありませんが、日々新鮮な食材に手間をかけて調理することは、何よりも美味しい食事になりました。さて、まずは江戸時代の食べ物から紹介していきます。

江戸時代の食事

ここでは、食事に大変革をもたらした調味料の普及という点から、江戸時代後期(一九世紀前半)から話を始めます。

安城市域には、城下町や宿場、港町、門前町などがなく、田舎をイメージしがちです。身分としても、ほとんどが村に住む百姓(農民)でした。しかし、中には商売を始める者も多く、三河国で一番の酒造家として、

大正・昭和前期の洋食の普及

安城が日本デンマークと謳われた時代、大正末から昭和初期にかけて、食生活に大きな変化がみられます。駅前では肉屋や洋食を出す店が登場しました。学校では女子生徒に向けて栄養や衛生、和食や洋食の献立、新しい台所用品を教えました。また安城町婦人会が主催した西洋料理講習会が開かれ、その後レシピ本が刊行されました。

養鶏がさかんになると安城から東京へ鶏卵が鉄道を利用して、毎日配達され、東京の百貨店などで販売されました。遠距離にも関わらず長期間続いたのはその品質の良さからでした。

卵料理も少しずつ増えていきます。特にオムレツは簡単に作れる洋食として広まりました。市域でも昭和初期の主婦の日記には時々オムレツを作っていたことが書かれています。また昭和二十年、配給生活ではありましたが、空襲警報が発令される日々の中でもオムレツなど洋食を食べていた少女の日記などがみられます。



丸碧商標の卵箱

下り酒(江戸に配送する酒)を商いとすると大商人都築弥厚なども登場しました。商人や村の富裕層は俳諧や狂俳、茶道や華道を嗜み、茶席を催しました。ここでは、会席料理が振る舞われました。

東海道には、宿場と宿場の間にあった間の宿として大浜茶屋・宇頭茶屋がありました。江戸時代中期に京都から江戸へ旅をした公家が大浜茶屋のそば切りが美味かったことを日記に記しています。

さらに、和泉村(市内和泉町)では、今に続く和泉そうめんが生産され、棒手振り(行商)で、岡崎や各地で販売していました。



江戸時代のそうめん作り(索麵堿)

明治期の食の変化

明治維新以降、西洋化が急速に進みます。食生活でも主に都市部で大きな変化が現れました。地方から仕事や学校のため、東京や横浜に足を運べば新しい文化



西洋料理講習録の一節

戦後の食事

戦争は終わりましたが、戦中と変わらず食糧不足の時代でした。ただ、市域は農業が盛んな地域で、食糧を供出して国を支えていました。都市部に比べて食生活では良かったと思われれます。

しかし、米不足にはかわりはなく、小麦粉を始めとする粉を使った食べ物も普及し始めました。粉と塩とふくらし粉で作る蒸し焼きパンの登場です。

簡素な電気パン焼き器やジュラルミン製のパン焼き器などが重宝されました。ジュラルミン製のは、戦後航空機製造が禁止されたため別の用途に利用されたものです。他にも粉ものは、うどんの配給が行われていました。



ジュラルミン製パン焼き器

行楽・ピクニック

外出先で食べる楽しみといえばお弁当があります。お弁当の入れ物は用途に併せてバリエーションが豊富です。

に触れられ、食生活も少しずつ変化していきました。

市域では鉄道開通後、駅ができ町が発展してくると、駅前に料理旅館や食堂

など様々な店舗が立ちはじめます。それまで宴会など村の中で行われていたものが、次第に駅前の旅館や料亭でも行われるようになってきました。また、明治三十年代には安城の養精舎が牛乳販売を行っています。明治後期になると戦争や軍隊生活を体験した人たちの影響から食生活も変化していきました。



醤油製造元山口商店引札



当時は今村駅(現新安城駅)前でピアホールを営業していたアマノ食堂のうちわ

農業がさかんだった市域では、食べ物を持つていく入れ物、弁当イチョコがありました。また芝居見物には漆器の破子弁当を持つて行きました。花見などには漆器のお弁当箱の他に炭火で燗のお酒が飲める野風炉というものがありません。



行楽の際に利用された野風炉と漆器

スイーツ

別腹の楽しみはスイーツです。江戸時代後期にもなるとカステイラや羊羹、まんじゅうなど買うだけではなく、お菓子のレシピ本も登場しました。

市域でも近代に使用した菓子屋のレシピが残っています。また田植後の農休みにぼたもちを作る風習がありました。普段のおやつには、蒸かした芋などの他に、だら焼きという素朴なパンケーキ風のお菓子が、今でも子供の頃に食べていた話が残っています。

企画展関連行事

- 記念講演会
「食からみた近代のくらし - 安城市域を中心に -」
[日時] 2月17日(土) 14時
[講師] 高部 淑子氏(日本福祉大学 知多半島総合研究所教授)
- 歴史講座
「日本デンマーク時代の食」
[日時] 1月27日(土) 14時
[講師] 三島 一信(本館学芸員)



● ミュージアムコンサート

- 「食のうた〜うたのおう〜学 ぼ〜安城の食!」
[日時] 3月3日(土) 14時
[出演] 安城市少年少女合唱団

● 体験講座

- 「おこしものづくり」
[日時] 2月18日(日) 10時〜12時
[講師] 古居敬子氏(環境アドバイザー)
- 「定員」30名
「料金」500円
[申込] 1月20日(土) 9時よりお電話でお申し込み下さい。



「いがまんじゅうづくり」

- [日時] 2月24日(土) 10時〜12時
[講師] 杉浦ひろ子氏(環境アドバイザー)
- 「定員」20名
「料金」500円
[申込] 2月4日(日) 9時よりお電話でお申し込み下さい。



体験講座申込先

0566-77-6655
(安城市歴史博物館)
※記念講演会、歴史講座は申込不要です。

戦地の携帯食

— 紀元二千六百年奉祝会の食饌 —

しよくせん

文責 水谷合子



主饌の折箱とパン袋、果物袋など

昭和十五年（一九四〇）、日本では大きなイベントが予定されていました。冬季（札幌）・夏季（東京）オリンピックや万博の開催です。しかし、昭和十二年に始まった日中戦争が激しくなり、翌年には開催中止が決定されました。そんな中でも初代神武天皇の即位から二六〇〇年目が昭和十五年にあたるということと、紀元二千六百年記念行事が行われました。十一月十日に天皇・皇后臨席のもと宮城外苑（現在の皇居外苑）で式典が催され、翌十一日には奉祝会が開かれました。両日とも全国各地から招待された五万五〇〇〇人が参列しました。奉祝会では、参列者に食饌（食事）と記念品が用意されました。

収蔵品の中に、この奉祝会の食饌がどのようなものだったかわかる資料があります。当時の安城町にあった農事試験場（市内池浦町）の技手が式典及び奉祝会に招かれたからです。個人招待ではなく愛知県内の団体参列者としての参加です。招待状の他にも参列者の心得（服装や参列場所の図付）や愛知県参列者注意事項、鉄道乗車証、宿舍割当票、集合場所の日比谷公園の園内図や入場順の番号表などが配布されました。全国から参列者が集うため、混乱が起きないように細かく指示されていました。

奉祝会は、式典同様に宮城外苑で行われました。参列者前の卓上には、持ち帰り用の食饌が置かれました。主饌である折箱に入っている

のは、「軍用携帯食」でした。献立には、御汁・口取・御肴・御飯・祝餅・お酒とあります。御汁は携帯粉味噌で熱湯を注ぐとあります。口取は缶詰です。中身は書いていませんが、缶には鯛の絵が描かれています。御肴は、味付乾燥牛肉です。そのまま湯に浸すとあります。御飯は、米・麦・鰹節・梅干しを用いて作った圧搾口糧と乾燥麵麴（乾パン）とあります。圧搾口糧とは、前述の材料をボン菓子のようにふくらませて圧縮させた携帯食です。祝餅は陸軍糧秣廠が作った戦力餅でした。お酒は航空元氣酒という日本酒と葡萄酒がそれぞれ小瓶に入っていました。主饌のほかに興亜パンやミカンや副饌が置かれました。興亜パンは、陸軍が節米代用食として考案したものです。小麦粉・大豆粉・甘藷粉・海藻粉・野菜・砂糖・脂肪・酵母などを原料としたもので、その袋には配合が書かれています。簡素な食事のようですが、一つずつ包装され、折詰されたことにより、見た目は華やかにみえます。

携帯食のような食事は、今から一〇〇年以上前から開発されていました。日露戦争では缶詰や乾パンが用いられています。ただし、これらは戦地において常に食べていたものではなく、野戦などに備えて持ち込んだ野戦食でした。戦地でも陣営で食事を作ったことはいくつもありました。また海軍は食事がよかったという話が伝わっています。日本では、大勢が参加する催しの場合、食事



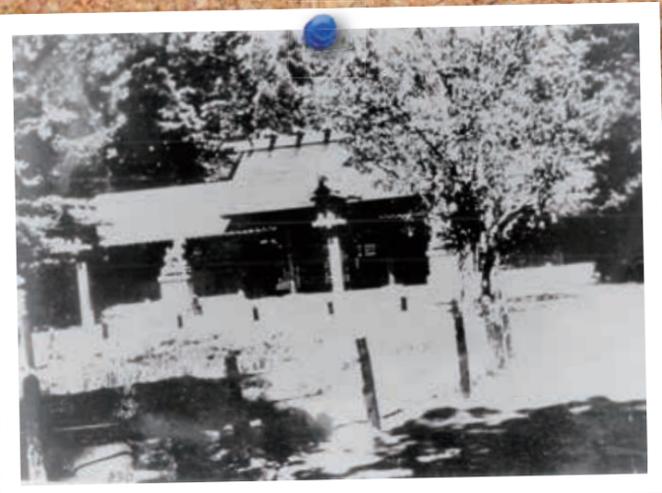
折箱の中の軍用携帯食

の多くは折詰で出されていました。奉祝会では一人分食饌を一尺六寸（五〇センチ弱）きりと配列されました。それを早朝から四時間二〇分で五万五〇〇〇人分を仕度することは大変な事であり、場所柄の関係も加え、持ち帰り用の食饌が用意されたと思われます。またこれらの食饌は、厳重に審査された業者から取り寄せられました。地方から代表として参列した人たちは、この食饌を大事に持ち帰りました。食べ終わった後もその器や包紙を捨てることなく残しておいてくれたおかげで、今日私たちが知ることができたのです。食饌は、普段公開していない資料です。特別な携帯食をご覧に企画展「一汁三菜」へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

第3回 懐かしの写真

昔ものがたり

文責：岩崎正樹（安城市歴史博物館 館長）



写真① 明治川神社（里町内会蔵）

明治川神社には、明治用水開削造営に関わった人々が祀られています。碧海地方の農業が、明治から大正時代にかけて明治用水の恩恵を受けて盛んになりました。神社を敬う気風も盛り上がり、整備が進められていきました。写真①は、碧海地方の農業が明治用水のおかげで、発展を遂げていった大正時代の明治川神社の写真です。

大正二年（一九一三）に、明治用水計画の発案者として都築弥厚が従五位下を賜り、四年（一九一五）には本殿へ合祀されています。明治川神社にとってはとても大きなことでした。さらに十五年（一九二六）には、青銅製の神馬と石造りの新橋が造られました。その後も明治用水の恩恵を受けて、碧海地方の農業はさらに発展しました。神社に祀られた人々を敬う気風が自然と盛り上がり、それによって整備が進められたのでしよう。

明治川神社は明治十八年（一八八五）の創建とされています。しかし、これは愛知県知事から神社として公認された年で、神社はそれ以前の明治十三年（一八八〇）だといえます。明治四十一年（一九〇

八、九頃に書かれた書類に、明治十三年に上倉池にあった弁天神社を流域一帯の鎮守の「大神」と決めるべきだとして現在の境内へ移したことが始まりだと記されています。弁天は古くからこの地方では水の神様として敬われていました。明治川神社の祭神は、大水上祖神、水分神、高麗神の三柱です。この三柱の神はいずれも水に関わる神であり、信仰の対象にふさわしいものだったのでしよう。水分神は川水を適宜、分流分配することを役目にされる神様です。水田灌溉を管理される神で用水に關係する神として信仰の対象にふさわしい神様と云っていいでしょう。

明治用水が通水し、事業として成功するかどうかかわらない時期から、水の神様である弁天神社をここに移して敬い始めたことは、用水の通水を待ち望んでいた人々の気持ちがよく伝わってきます。また、明治川神社の本殿左側には伊佐雄神社があります。ここには当初から用水建設にかかわった功労者の伊予田与八郎、岡本兵松、田中勤七郎ら七人が、存命中にもかかわらず神として祀られました。亡く

なってしまうと、生きていくうちに祀られたという事は、彼ら功労者に対しての尊崇と畏敬の念、そして通水を喜ぶ感謝の大きさがうかがわれます。さらに都築弥厚が本殿に合祀された後、昭和十七年（一九四二）に伊予田与八郎、昭和二十六年（一九五一）には岡本兵松が伊佐雄神社から本殿に合祀されています。

存命中に祀られた伊予田与八郎については、こんな話が残っています。伊予田は、明治二十二年（一八八九）に、明治川神社の神職を務めることになりました。神職として自らを祀ることになったため、神事には、衣冠束帯で身を整え列席しましたが、一般の神職が参詣者の最前列で参詣者と同じように神に向かって座るのは違っていて、参詣者に向かって着座したとのことです。

写真②は、明治用水記念碑です。明治川神社交差点の北側（浜屋町）に隣接して建てられています。二本建つ石碑のうち右側には、明治用水の成業式に出席した内務卿松方正義「疎通千里利沢万世」と大蔵卿佐野常民「聖朝嘉蹟良民

義拳」の言葉が記されています。松方内務卿の言葉は、明治用水が千里の沃野を開き、万世に恵みを施すという意味です。佐野大蔵卿の言葉は、素晴らしい業績を上げ、良い民が正しい行いをするという意味です。もう一つの石碑には、漢文で荒蕪の土地が多かったことが述べられています。そして、都築弥厚の発願から竣工に至るまでが述べられ、用水が美田を増やし、村の生活を変え、工業や運送業の発展にも寄与することが述べられています。

ただ、皮肉なことに伊予田や岡本が財産を失う羽目になったのは、成業式で祝辞を述べ、さらに記念碑に言葉を残した松方が行った財政政策によるデフレが原因であったことです。



写真② 明治用水記念碑（里町内会蔵）

第8回 松平シンポジウム

信長御在世の時の如く
織田体制の中の家康

平成30年 2/11(日) 13:00~17:00

場所 安城市歴史博物館 エントランスホール 定員 180名 ※事前申込不要

このシンポジウムでは、織田信長と同盟関係にあった徳川家康が、天正十年(一五八二)に起きた本能寺の変後の動向から、織田体制の中でのような関係性を保っていたかを議論します。そして織田体制内での勢力争いのなか、信長在世期の関東の惣無事の継承について、また関東だけではなく、北陸・上杉領国などとの関係を含めた視野で、いかに家康は立ち位置を築いていったのかを考えます。

出演者

- コーディネーター
播磨 良紀氏 中京大学教授
- パネリスト
「清須会議以降の羽柴秀吉と織田家臣団との関係について」
谷口 央氏 (首都大学東京教授)
- 「徳川家康と関東との関係について」
柴裕之氏 (東洋大学講師)
- 「織田体制の中の家臣団の動向 (佐々成政について)」
萩原大輔氏 (富山市郷土博物館学芸員)

安祥文化のよとで
はたらく
人たち
安城市歴史博物館
「展示監視員」



Q1 どんなお仕事をしていますか?

特別展・企画展の観覧券を確認することにも、お客様が快適に作品を鑑賞していただけるよう、展示室内でお客様の案内誘導や作品の安全保護のための監視業務をおこなっています。

Q2 お仕事の楽しさは何ですか?

歴史や展示作品について勉強させてもらうことで、新しい発見があります。ますます歴史が知りたくなり、ゆかりの地を訪ねたり、プライベートで仏像や寺院を見に行くなど興味が広がりました。また、毎回変わる展示にあわせて、どう対応したらお客様が気持ち良く過ごせるのかを監視員同士で話し合っていて、環境づくりをしていくことも楽しいです。

Q3 仕事中に心がけていることは?

展示室内で大きな声で会話をされているお客様には、すべてのお客様が静かな環境で展示作品をご覧いただけるよう、でも歴史博物館の親しみやすい雰囲気壊さないよう、言葉遣いに気をつけてお声掛けしています。お客様に満足していただき、「良かった」「また歴史博に来たい」と思ってもらえたらうれしいです。

Q4 お客様にメッセージをお願いします

歴史博物館の常設展を覗いただけでは、安城市が古い歴史を持つ歴史文化の街ということがよくわかります。歴史は知れば知るほどどんどん面白くなっていくので、歴史博物館で歴史に触れてほしいです。展示だけでなく、安祥城址公園、博物館、市民ギャラリーでゆったりとした時間が過ごせるので、ぜひ遊びに来てください。

歴博 福よせ雛

平成30年
2.17(土)
3.18(日)

ある真夜中のこと—
館内から雛人形たちの話し声が聞こえてきました。

「ああ、俺たちも年をとったなあ!」
「お役目をおえて隠居となったけど、まだまだ働けるなあー。」
「そうだよ、そのねえさんもまだきれいだね。」
「あら、わたくしのことでしょうか。恥ずかしうございます。」
「福よせ雛って知ってるかい? 隠居になった俺たちみたいなのが、みんなに笑顔と福を呼ぶ「福よせ雛」となって、人や施設や地域をつなぐキュービッド役になるってさ!」
「俺たちも、もう一花咲かせようじゃないか」
「そうだそうだ!」



2018年1月~3月までの歴史イベントを紹介! 2018年も歴史に触れる1年に!

■安城歴博・中京大学連携講座

平成29年度下半期にて、中京大学教授陣をお迎えしての講座を歴史博物館で開催しています

平成30年1月13日(土)14時~
テーマ「尾張藩の情報収集活動-殿中刃傷事件をめぐる-」
講師: 白根孝胤氏 (文学部歴史文化学科准教授)

平成30年3月10日(土)14時~
テーマ「愛知県の自由民権運動」
講師: 中元崇智氏 (文学部歴史文化学科准教授)

■歴博講座

近年の安城の古墳における調査成果を報告します。

平成30年3月17日(土)14時~
テーマ「新発見! 安城の古墳」
講師: 西島庸介 (市埋蔵文化財センター学芸員)



塚越古墳の発掘調査風景